

## 第4章

# 東海村まち・ひと・しごと 創生総合戦略【第2期】

※本章は、東海村まち・ひと・しごと創生総合戦略【第2期】  
の概要版となっております。



## 第4章 東海村まち・ひと・しごと創生総合戦略【第2期】

### 第1項 まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

#### ①総合戦略策定の背景

国では、平成26年(2014年)に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、急速な少子高齢化の進展に対応し、将来にわたって活力ある社会を維持していくため、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」と、今後5カ年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

東海村においても、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立し、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻すため、平成27年(2015年)10月に、「東海村人口ビジョン」と、5カ年の目標や施策をまとめた「東海村まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下第1期総合戦略という)を策定しました。

今般、国の長期ビジョンの改訂及び第2期総合戦略の策定を受け、村においても、人口ビジョンの改訂を行うとともに、第2期総合戦略を策定します。

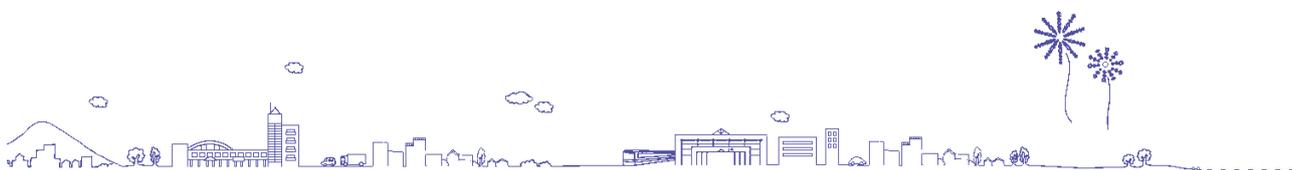
#### ②総合戦略の位置づけと計画期間

「東海村人口ビジョン」(p.20)に掲げた将来展望を目指すため、まち・ひと・しごと創生に関わる基本目標と施策の展開を定めるとともに、第1期総合戦略の取組を継続した上で、新たな視点や重点的に取り組む分野横断的なミッションを盛り込んだアクションプランです。

第2期総合戦略の計画期間は、令和2年度(2020年度)から令和6年度(2024年度)までの5カ年とし、総合戦略に掲げた施策の効果を検証した上で、計画期間中であっても必要に応じて、施策の見直しや改訂ができるものとします。

#### ③総合計画との関連性

第2期総合戦略は、総合計画で掲げる将来ビジョンに基づき、まち・ひと・しごと創生に係る個別計画として定めるものです。村にとっては、人口減少へ対応するため、自律的で持続的な地域社会を創っていくことが、喫緊の課題となっているところであり、総合計画と人口ビジョン・第2期総合戦略を併せて策定することで、“人口減少問題に取り組み、将来にわたって活力ある東海村を目指していく”という、村としての方向性を示していくこととしました。



## 東海村人口ビジョン（令和2年3月改訂版）（p.20）

- 将来展望を「2040年～2045年の総人口・約36,000人」と設定する。  
そのため、将来にわたり
- ・現在の合計特殊出生率（1.6程度）及び年間出生数（約300人）を維持する。
  - ・転入が転出を上回る社会増の状況（年50人・30世帯程度）を生み出す。



目指すべき将来展望を達成するため



### 東海村まち・ひと・しごと創生総合戦略【第2期】2020-2024

#### ●新たに盛り込む重要な3つの視点

- (1) 分野や施策に捉われない横断的な枠組みづくり
- (2) SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けたまちづくり
- (3) Society5.0の実現に向けた未来技術の活用

#### ●重点的に取り組む5つの分野横断的ミッション（p.58）

- 【まち】▽自家用車がなくても「移動（生活）できる」まちづくり【先行プロジェクト】  
▽健康づくりとスポーツがリンクする「元気な」まちづくり
- 【ひと】▽地域の「未来を担う人財」の掘り起こしと育成
- 【しごと】▽産学官の連携による「新たな科学技術を活かした」新産業の創出と働く場の確保  
▽「子育てと仕事の両立」を支える仕組みづくり

#### ●3つの基本目標と6つの基本施策（p.61）

- (1) 多様な世代から選ばれるまちづくりの推進  
▽“いつか戻りたい”, “ずっと住み続けたい” まち  
▽“行ってみたい”, “住んでみたい” まち
- (2) 若い世代が安心して子育てできるまちづくりの推進  
▽女性が生き生きと働き, 出産・子育てができるまち  
▽子育て世代に優しいまち
- (3) 誰もが生き生きと働き, 活躍できるまちづくりの推進  
▽最先端の科学技術が集積するポテンシャルを活かした魅力あるまち  
▽持続可能な地域経済を支える仕組みがあるまち



## 第2項 重点的に取り組む分野横断的なミッション

第2期総合戦略では、新たに盛り込む重要な視点（p.57）に基づき、分野・施策・主体に捉われない横断的な取組の推進が重要です。さらに、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環の確立や、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻す取組を横断的に推進するため、以下に掲げる5つのミッションを具現化し、取り組めます。

### 【まち】 1. 自家用車がなくても「移動（生活）できる」まちづくり【先行プロジェクト】

※先行プロジェクトとして位置付け、2. 健康づくりや3. 地域づくりや人材育成の各プロジェクトに関連付ける。

### 2. 健康づくりとスポーツがリンクする「元気な」まちづくり

### 【ひと】 3. 地域の「未来を担う人財」の掘り起こしと育成

### 【しごと】 4. 産学官の連携による「新たな科学技術を活かした」新産業の創出と働く場の確保

### 5. 「子育てと仕事の両立」を支える仕組みづくり

## 1. 自家用車がなくても「移動（生活）できる」まちづくり【先行プロジェクト】

少子高齢化の急激な進展や選ばれる住みよいまちを考える際には、日常生活上の移動手段を自分のライフスタイルに合わせ、多様な選択肢から選ぶことができ、移動にストレスを感じないまちづくりが重要となります。移動手段としてのソフト事業（デマンドタクシー、路線バス、カーシェアやライドシェアも見据えた将来的な移動手段）と合わせ、車道や歩道などのハード整備事業、ベンチやバス停などの環境整備、健康づくり、地域づくりと連動した事業展開を図る必要があります。

また、歩いて移動できるまちづくりを進めることにより、観光や地元の商工業、交通結節点となる東海駅周辺の活性化や、環境負荷の軽減等にも寄与することが期待されます。



## 2. 健康づくりとスポーツがリンクする「元気な」まちづくり

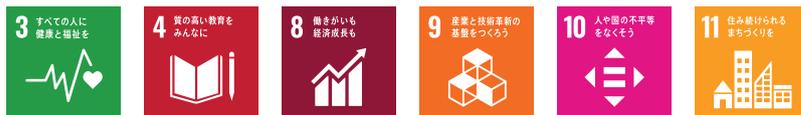
健康づくりは、老若男女問わず関心が高い分野であり、村民総参加型の事業展開が可能な分野であることから、未来技術を活用したデータ管理システム等の導入による、目標設定や成果などの見える化を検討します。健康づくりが地域活性化のモチベーションとなる施策を展開し、「選ばれ続けるまち」としての魅力を磨き、地方創生、SDGsのモデル事業としての展開を進めていきます。

また、スポーツ振興（特にいきいき茨城ゆめ国体2019において、東海村開催であったホッケー競技）ともリンクし、アスリートの育成から生涯スポーツの推進までの幅広い施策展開を図ります。



### 3. 地域の「未来を担う人財」の掘り起こしと育成

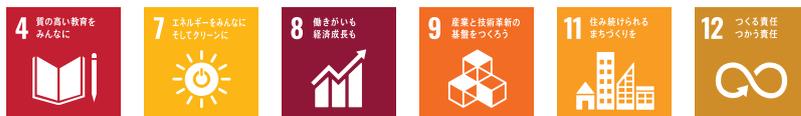
少子高齢化の影響やライフスタイルの変化、地域社会との関わり方の変化などもあり、地域づくりのキーパーソンとなる担い手が高齢化するとともに、不足している現状があります。地域の担い手が不足することにより、地域力の後退や地域のつながりの希薄化など、「まち」としての活力を失ってしまう一因につながってしまいます。そこで、地元で立地する県立東海高等学校や、商工会青年部、子育て世代を中心としたサークルやまちづくりを考えるグループ等と連携し、若い世代と地域を結びつけることにより、地域の活性化や高校の魅力向上につながり、さらに、地域への参画、地域への移住・定住、将来のUターン、働く場としての選択、地域での起業・創業、関係人口の拡大・創出にもつなげていきます。



### 4. 産学官の連携による「新たな科学技術を活かした」新産業の創出と働く場の確保

最先端の原子力科学が集積する東海村らしさを活かしたまちづくりを進めるため、村内に事業所等を有する国等の研究機関と村内事業者との連携による新たな産業の創出に向けた取り組みを支援し、地域の活性化を図ります。

なお、村の基幹産業である原子力産業を下支えしている、原子力関連企業の人材育成や確保についても、引き続き原子力人材育成確保協議会などの関係機関とともに取組みます。



### 5. 「子育てと仕事の両立」を支える仕組みづくり

子育て中の世代に焦点を当て、就労意欲のある方に対して、仕事のマッチングや子育てサービスに関する情報提供、出産・育児・子育てに関する相談支援などを総合的に提供し、在宅勤務（テレワーク）等の多様な働き方を支援するなど、子育て中の若い世代に選ばれるまちづくりにつなげていきます。既存施設（東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」）や制度とも連携した上で、就労しやすいワークスペースの整備を検討していきます。



## 第3項 基本目標と施策の展開

### 基本目標 1 多様な世代から選ばれるまちづくりの推進

#### 【基本的な方向性】

“いつか戻りたい”, “ずっと住み続けたい” と想えるまちとなるため, 「ふるさと」への愛着を醸成し, 定住人口を維持するとともに, 将来ふるさとに戻ってくる(Uターン)若者を育てます。また, “行ってみたい”, “住んでみたい” と多様な世代(特に若い世代)から選ばれるまちづくりを進めます。

#### 【数値目標】

数値目標	基準値	目標値
令和2年から令和6年までの純移動数 (転入-転出の数⇒50人×5年)	<b>-7人</b> 平成27-31年 (2015-2019年)	<b>250人</b> 令和2-6年 (2020-2024年)
東海村に住み続けたいと考えている住民の割合 (総合計画 住民アンケート調査⇒5.0ポイントアップを目標)	<b>71.5%</b> 平成30年度 (2018年度)	<b>76.5%</b> 令和6年度 (2024年度)

### 基本目標 2 若い世代が安心して子育てできるまちづくりの推進

#### 【基本的な方向性】

子育てと仕事の両立支援など女性が生き生きと働くことができる環境づくりや, 行政と地域が一体となった「子育てに優しいまちづくり」の実現を目指すことにより, 若い世代が安心して子どもを産み育て, 誰もが活躍できる社会の実現を図ります。

#### 【数値目標】

数値目標	基準値	目標値
安心して産み育てられる満足度 (総合計画 住民アンケート調査⇒約5.0ポイントアップを目標)	<b>54.1%</b> 平成30年度 (2018年度)	<b>60.0%</b> 令和6年度 (2024年度)
令和2年から令和6年までの累計出生数 (年間出生数⇒300人×5年)	<b>1,591人</b> 平成27-31年 (2015-2019年)	<b>1,500人</b> 令和2-6年 (2020-2024年)

### 基本目標 3 誰もが生き生きと働き, 活躍できるまちづくりの推進

#### 【基本的な方向性】

最先端科学技術が集積するサイエスタウンの特色を活かした雇用の創出, 産学官連携による創業支援による雇用の創出, 地域経済を支える既存事業者の活性化を通じた雇用の創出・確保に取り組むことにより, 誰もが生き生きと働くことができ, 活躍することができるまちの実現を図ります。

#### 【数値目標】

数値目標	基準値	目標値
従業員数 (経済センサス活動調査⇒H24(第1期の基準値)を目標値設定)	<b>17,164人</b> 平成30年度 (2018年度)	<b>17,700人</b> 令和6年度 (2024年度)
50歳未満における農業就業人口 (農林業センサス⇒H22(第1期の基準値)を目標値設定)	<b>38人</b> 平成30年度 (2018年度)	<b>現状維持</b> 令和6年度 (2024年度)



## 具体的な施策・主な取組

### 基本目標 1 多様な世代から選ばれるまちづくりの推進

#### 基本施策 1-1 “いつか戻りたい”, “ずっと住み続けたい” まち

##### (1) 「連携・協働・共創」による地域づくりの推進

各地域の特性や課題等を踏まえ、住民・組織・事業者・行政など多様な主体が一体となって考え、行動することにより、魅力あふれる「連携・協働・共創」の地域づくりに取り組みます。

##### (2) 地域資源を活かした魅力的なまちづくり

歴史、自然、文化などさまざまな地域にある資源を活かしたまちのブランド化を図るなど、魅力の創出に取り組みます。

##### (3) 子どもたちに“東海村が好き”と想ってもらえるまちづくり

地域の未来を担う子どもたちが東海村に対する郷土愛を持ち続けられるよう、地域とのつながり、村内企業や関係団体とのつながり、自然体験や歴史を学ぶ機会を創出します。

#### 基本施策 1-2 “行ってみたい”, “住んでみたい” まち

##### (1) 東海村ブランドの効果的な発信

“住んでみたい”と思わせる東海村の魅力（住みやすさ、子育て環境の充実、教育環境の充実など）や“行ってみたい”と思わせる東海村の魅力（農産物や果実、特色あるイベントなど）を届けたい対象に対して効果的に発信するとともに、さらなるブランド力向上に取り組みます。

##### (2) 移動しやすいまちづくり

住民はもとより、観光客や原子力関係の研究者・技術者など、全ての関係者に対して、多様な移動手段を提供できるよう、公共交通網の維持・確保に取り組みます。

##### (3) 移住者を積極的に受け入れるまちづくり

多様な機関と連携し、さまざまな移住・定住施策を活用するとともに、空き家や空き店舗の活用も含め、移住者を積極的に受け入れ、地域と連携したまちづくりに取り組みます。

### 基本目標 2 若い世代が安心して子育てできるまちづくりの推進

#### 基本施策 2-1 女性が生き生きと働き、出産・子育てができるまち

##### (1) 安心して子どもを預けられる保育サービスの充実

安心して子どもを預け働けるよう、既存の保育所や幼稚園の再整備に加え、新公立保育所の整備、民間保育所の誘致などを進めることにより、待機児童の解消に努めるとともに、引き続き病児・病後児保育や延長保育、学童クラブ等の保育サービスの充実に取り組みます。



## (2) 女性の就労機会の創出・マッチング

女性の就労推進のため、きっかけづくりや創業・起業の挑戦を応援するなどのほか、在宅勤務やコワーキングスペースを確保するなど、多様な支援策についても展開します。

## (3) 子育てに優しい企業の拡大・促進

仕事と子育ての両立を積極的に支援する企業を応援するとともに、さらなる拡大に取り組みます。

### **基本施策2-2 子育て世代に優しいまち**

#### (1) 妊娠・出産・子育てを切れ目なく支える「とうかい版ネウボラ」(子育て世代包括支援センター「はぐ♡くみ」)の推進

安心して妊娠・出産を迎え子育てができるよう、妊娠期から子育て期に至るまでの包括的な相談・支援体制を整備した「とうかい版ネウボラ」を推進します。

#### (2) 妊娠・出産・子育てに関する経済的な不安軽減

安心して妊娠・出産を迎え、子育てができるよう、経済的な支援を推進します。

#### (3) 未来を担う子どもたちをサポートする教育環境の充実

子どもたちの学びを多角的にサポートするとともに、学校教育の充実や組織力の向上を図るため、多様な専門性を有する職員の配置に取り組みます。

#### (4) 子育てに優しい生活環境の充実

子育て世代が安心してのびのびと暮らせるまちを目指し、公園や歩道などの住環境の整備を進めます。

### **基本目標 3 誰もが生き生きと働き、活躍できるまちづくりの推進**

#### **基本施策3-1 最先端の科学技術が集積するポテンシャルを活かした魅力あるまち**

##### (1) 「産学官」が連携した原子力技術者などの育成・確保

原子力関連企業や大学・高校などの教育機関と連携し、原子力に関する研究等を下支えする技術者などの人材育成・確保を支援し、雇用の創出に努めます。

##### (2) 未来を担う子どもたちへの探求心を育む「科学」体験の推進

最先端の科学技術が集積する東海村で生まれ育つ子どもたちに、科学への興味関心をもってもらうため、原子力研究機関・原子力関連企業、高校・大学などの関係機関と連携し、最先端の科学技術などを学ぶ機会・触れる機会を提供し、科学への探求心を育みます。



## 基本施策3-2 持続可能な地域経済を支える仕組みがあるまち

### (1) 地域経済を支える既存事業者への経営支援

商工会や金融機関などの関係機関と連携し、地域経済を支えている既存事業者の積極的な活性化を図ることで、販路拡大・人材育成などを支援し、経営の安定、雇用の確保に取り組みます。

### (2) 企業・創業や最先端の科学技術研究・開発支援

新しい事業の創出に挑戦する創業希望者に対して、経営、財務、人材育成、販路開拓などに関する包括的な支援を提供し、新たな産業・雇用の創出に取り組みます。

### (3) 若い世代の就農促進

新たな農業の担い手を育成し、活躍できるよう、関係機関と連携し、就農に関わる包括的な支援を展開することで、地産地消を中心とした農産物の需要創出・販路拡大に取り組みます。



